

町会ニュース

第37号

平成27年1月1日
(発行)
箕土路町会



新年あけましておめでとうございます

心つないで安全・安心住み良い町に

町内会の皆様明けましておめでとうございます



新年あけましたおめでとうございます。箕土路町内会の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。今年も皆様のお力を頂いて、町会活動に取り組みたいので宜しくお願いします。

い致します。

また、歳月の経過は速く戦後70年を迎えようとしていますが、町民のご努力の賜物である「箕土路町らしさ」を今後も、皆様とともに大きく育てて行きたいと思えます。

町会長 吉田篤



街角散歩

「箕土路和田 冬の天の川伝説」



今回は新年にあなごめで話したい。昔々、岸和田の町には、十年に一度しか流れない白色の流れ星を見ると、運命の相手と永遠に結ばれるという言い伝えがあった。この言い伝えを強く信じる若い男女がいた。漁師町に住む生真面目な青年。一方、娘は久米田池のほとりに住む農家の一人娘。ある冬の寒い夜、二人はいつものように星を眺めていた。すると一筋の光が現われ、それが流星となり流れ落ちるのが見えた。

それは岸和田に流れる「天の川」の辺りで、二人は光に導かれそれぞれ川へ向かった。青年が天の川にたどり着くと、あたり一辺が真っ白に包まれた美しい女性が向こう岸に立っていた。また娘も向こう岸に、光り輝いたくまの尻尾を見つけた。二人は一目で恋に落ちた。しかし天の川はとても広く深く、渡ることはできない。そこで二人は夜空に願い事をした。どうにか向こう岸の、あの方に逢わせてください。すると、川の真ん中から守り神である龍が現われ、青年と娘に絵馬を手渡しこう告げた。「この絵馬に想いを書いて、毎夜一枚ずつ天の川に流すように」。二人は毎日日休むことなく一年中、天の川に絵馬を流し続けた。

十年経ったある日、二人がいつものように天の川にやって来た。そして天の川に想いを込めて絵馬を流した。すると再び白色に輝く流れ星が天の川に落ちてきた。そして川が真っ白に光り輝き、二人が書き続けた絵馬が一枚一枚つながり、架け橋となつて天の川の兩岸を繋いだ。二人は、橋の真ん中で結ばれることができた。その後、二人は岸城神社の宮で永遠の愛を誓い、末長く幸せに暮らした。天の川に架けられた絵馬の橋は、夜空に舞い上がり星の川となり、永遠に二人を照らし続けた。これが岸和田に伝わる、箕土路町の中を流れる冬の天の川伝説である。『岸和田イルミネーション 冬の天の川伝説』より引用



年の瀬も押し迫った12月21日(日)午前9時より、親和会を中心に各団体の参加で町会館の清掃活動を実施しました。恒例の行事ですが、平素は行き届かないエアコンの吹き出し口や窓ガラス、植え込みの草引き、会館前の側溝まで大変綺麗に蘇りました。



年末大掃除で一年の垢を落とし綺麗さっぱり蘇った町会館



歳末夜警に大勢の青年団が集結

昨年末、12月28日(日)30日(火)までの三日間、青年団による歳末夜警が実施されました。年末の慌ただしい深夜の町内の見回り巡回、寒い中本当にご苦労様でした。



交通安全協会から激励のご厚志を受ける

寒い中ですが町内の安全を守る為、よろしくお願ひします。



1・2月の主な予定

1月
11日(日) 評議員会

2月
8日(日) 評議員会

(注意)

- 埋立ゴミ回収は3/1(日)です。
- 不要乾電池は箕土路青年会館まで持って行って下さい。

